



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための「連携・協働」の推進



この1年間を振り返り

次の一歩へ

いよいよ3月を迎えました。1年間の中学校生活を振り返り、自分がどのように成長してきたのかを確かめる時期です。その振り返りをもとに、次年度へ向けた**新たな目標**を立てていきましょう。

4月から1・2年生は新入生を迎え、上級生として学校を支える立場になります。より主体的で充実した学校生活を創っていくことを期待しています。また、校外学習(修学旅行・社会体験)も控えています。これらの行事を通して、ふるさと道志への理解を深め、社会のルールやマナーを学んでいきましょう。日々の学習や活動の積み重ねが、確かな自信につながる1年にしてほしいと思います。

もうすぐ中学卒業

旅立ちの時を迎える3年生へ

3年生9名は、3月11日(水)に中学卒業の日を迎えます。3年生の皆さん、そして保護者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

3年間を振り返ると、入学式の日不安や緊張から始まり、過ぎてみればあっという間だったのではないのでしょうか。保護者の皆さまにとっても、思春期特有の難しさに向き合いながら、わが子の成長を支えてきた3年間だったと思います。

中学生は、自立への第一歩として心理的な親離れが始まる時期です。親への反発や友人関係の揺れ動き等、気持ちが不安定になりやすい時期でもあります。そんな子どもたちを見守る保護者の皆さまのご苦労は、計り知れません。

中学卒業後は高校へ進学し、新たな環境での生活が始まります。義務教育の9年間を終えるこの節目に、“**自分のことは自分で決める**”という姿勢を大切にしながら、少しずつ大人としての関わり方へ移行していくことをお勧めします。とはいえ、まだまだ支えが必要な時期でもあります。叱ることも、寄り添うことも、これからの成長に欠かせない大切な関わりです。

私たち教職員一同も、十分とは言えない部分があったかもしれませんが、生徒たちとともに歩んできたこの1年間を誇りに思っています。卒業していく9名の

皆さんが、自分の足でしっかりと“前へ、前へ”と歩んでいくことを心から願っています。

雑感 私の独り言

変えられるのは未来の自分

久しぶりの「私の独り言」です。今回は、冬季オリンピックのフィギュアスケートで大きな感動を届けてくれた、三浦璃来さんと木原龍一さんの“りくりゅう”ペアについてです。

この冬、日本中が、そして世界中が、二人の演技に魅了されました。私自身もテレビ越しに、その瞬間を見つめながら、思わず涙していました。演技の美しさだけでなく、そこに至るまでの努力や、互いを信じて支え合う姿が胸に迫ってきたからです。大会後も、様々なメディアで二人の歩みや人柄が紹介されました。知れば知るほど、積み重ねてきた努力の深さや、失敗を力に変えてきた強さに心を動かされました。

そして、これは職業柄なのでしょう。か。「一体どんな中学時代を過ごしてきたのだろう」「その頃、どんな夢や希望を抱いていたのだろう」と、つい想像してしまいます。きっと、今の姿につながる芽が、その頃から育っていたのだろうと思うのです。

他人と過去は変えられないが、

自分と未来は変えられる (エリック・バーン)

過去の自分は変えられませんが、未来の自分はいくらでも変えていけます。昨日の自分を変えることはできませんが、今日の一歩(努力)が明日の自分を創ります。うまくいかない日があっても、その経験をどう受け止め、どう次につなげるかで未来は大きく変わります。失敗や悔しさを重ねながら、それでも前を向き続けたからこそ、輝く瞬間があるのだと思います。



もちろん、これまでの自分が今の自分を形づくっているのも事実です。過去の延長に今があり、未来があります。しかし、それでも未来を形づくるのは、“**これからの自分**”です。今日の一歩を大切に積み重ねていくことが、やがて大きな力になる。私は“りくりゅう”ペアを見て、こんなことを思いました。